



誰が世界を変えるのか？！

私は「もしアメリカ時間 11 月 16 日(日本時間 17 日)に大事件が起きなければ上げ相場になる」と言ってきた。

大事件とはプーチンの暗殺か台湾有事であるが本日現在起きていない。

資本主義世界の主権者は人間ではなく「資本」である。

資本とは独占資本のことで、国家から独立した通貨発行元である。

アメリカの通貨ドルの発行元である中央銀行は 12 の株式会社連銀を束ねた FRB(連邦準備理事会)であり、全連銀の株主は 100%ユダヤ資本である。

アメリカのドルと日本の円との違いは、ドルは世界の通貨(国際基軸通貨)であり、円はローカル通貨であること。

日本を含む世界の経済を考えるなら先ず FRB の金融政策を知り、理解することが肝要。

仮にユダヤ資本の意志を「資本の意志」とするなら、資本の意志は常に世界を戦争に誘導する。

戦争には新型コロナのようなソフトな戦争とウクライナ戦争のようなハードな戦争がある。

資本の意志は世界を Scrap and Build(破壊して再建する)に誘導、すなわちインフレ(バブル)に誘導し、頂点に達したら崩壊する。

資本の意志の本性は「高利貸し」である。

「高い利息で金を貸し、払えなくして担保を取る」である。

独占資本は世界の債権者であり、世界の国家と国民は債務者である。

人間は生まれつき怠慢に出来ている。

出来るだけ何もしないで儲けたいと思っている。

ユダヤ資本は人間を、または国家をフル活動させて、創造された富を奪う為に「おだて」と「脅し」の手を使う。

おだては民主主義、脅しは専制主義である。

民族の文化違い、自尊心、劣等感、人口を考慮に入れ、最もユダヤ資本に好都合な国家形成がなされてきた。

アメリカの建国、ロシア革命、中国建国もすべてユダヤ資本が関与していることは歴史的事実である。

これから世界はどうなる、日本はどうなるかを知るには「資本の意志」を知らねばならない。

資本の意志がウクライナ戦争、台湾有事を誘導しているのは、今は Scrap(破壊)の時期だからである。

「米中冷戦は今後 10 年続く」と言っているのはユダヤ系シンクタンクである。

先般の米中首脳会談で、両陣営の違いを乗り越えて、共通の利益の為に協力し、バイデンが副大統領であった時オバマ大統領と習近平主席が模索した米中戦略的パートナーシップを結ぶ方向が決まった。

それは従来の米一極覇権から Group of two:G2(米中二大国)による国際責任(覇権)を視野に置いたものである。

資本の意志は地政学的米一極覇権と国際基軸通貨ドル覇権が限界に来たことを認識している。

米中の将来のあるべき姿を地平線に見ながら、今後両国は熾烈な戦いを余儀なくされる。

それが資本の意志である。

資本の意志がそれを世界に思い知らせる為には「台湾有事あり！」と私は思っている。

12 月 1 日から毎日の市場動向と戦略、毎日の国際情勢分析と解説をご提供する。

本気で金儲けをしたい方、日々変わる世界と日本の真実を会得した方は、「増田俊男の目からウロコの増田塾」へご入会下さい。